

## 中学校第2学年音楽科学習指導案

指導者 小田嶋 孝

### 1 題材名 オペラと歌舞伎の歌声を比べて聴こう

### 2 題材の目標

オペラと歌舞伎における歌声の特徴を比較し、音楽の多様性を理解して鑑賞する。

### 3 題材設定の意図

#### (1) 題材観

本題材では、総合芸術である西洋のオペラと日本の歌舞伎において、特に歌唱に焦点を当てて歌声（音色）と曲想とのかかわりを比較鑑賞する活動から、双方の音楽の共通点や相違点、併せてその音楽だけに見られる固有性を理解して聴き、それぞれのよさや美しさを言葉で表す活動を展開する。この活動を通して、題材の目標で設定した鑑賞する力を育てたいと考える。

#### (2) 生徒の実態（計38人）

質問1 オペラとはどんなものか知っていますか。

ア 知っている。	0人
イ 何となく知っている。	7人
ウ よく知らない。	12人
エ 知らない。	19人

質問2 歌舞伎とはどんなものか知っていますか。

ア 知っている。	0人
イ 何となく知っている。	6人
ウ よく知らない。	16人
エ 知らない。	14人

質問3 ア・イと答えた人は知っていることを書いてください。

- ・ テレビで見かける俳優。

質問4 歌を聴いて、その歌声（音色）の特徴を言葉で説明できますか。

ア 自分の力でできると思う。	0人
イ 例示があればできると思う。	7人
ウ できないと思う。	31人

本学級の生徒は、明るく積極的なクラスで、与えられた課題に対して熱心に取り組んでいる。

アンケートによると、オペラや歌舞伎についてテレビなどで知ってるが、実際に鑑賞したことがある生徒はいない。また、歌声（音色）を客観的な理由としてあげながら言葉で表すことに自信がない生徒も多い。

この生徒の実態や意識を踏まえて、創造的な鑑賞指導の工夫改善をし、多様な音楽文化を基盤とした曲種に応じた歌声（音色）に焦点を当て、言葉で表す活動を取り入れていきたい。

#### (3) 指導観

指導に当たっては、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国のさまざまな音楽の中から、総合芸術であるオペラと歌舞伎を取り上げ、曲種に応じた発声法などの歌声（音色）と曲想とのかかわりの違いを感じ取り、共通点や相違点、併せてその音楽だけに見られる固有性を比較することで、特徴を理解して聴けるようにしたい。そのためにそれぞれの楽曲のあらすじや登場人物、音楽文化についての知識を分かりやすく紹介するとともに、ゲストティーチャー（以下、G Tと示す）を招き、実際に演奏を聴くことに

より音色や声の響きばかりでなく、表情や身体の動きも含めて鑑賞できるようにする。併せて、それぞれの発声法でアリアと長唄を歌う体験を通して、実感を伴って理解させていきたい。さらに、生徒が習得した知識や歌声（音色）を知覚・感受したことを基にして、ワークシートや伝え合う場面を工夫した言葉で表す活動を設定する。

また、県の研究テーマである「ともに親しみ、ともに楽しみながら心をつなぐ音楽を求めて」を受け、生徒が主体的に鑑賞に取り組み、ともに学び合う場面を生かせるようにしたい。

#### 4 教材について

- ・アイダから第3幕「ああ我が故郷」(ジュゼッペ・ヴェルディ作曲)
- ・長唄「勸進帳」(三世並木五瓶 作 四世杵屋六三郎 作曲)

#### 5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	エ鑑賞の能力
歌唱			
鑑賞			
評題 価材 規の 準	歌声（音色）と曲想とのかかわりを中心として、オペラと歌舞伎の特徴、音楽の多様性などに関心をもって鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	歌声（音色）と曲想とのかかわりを中心として、アリアと長唄のそれぞれの発声の違いを感じ取ったり、歌う体験をしたりして、音楽の多様性を感じ取る。	歌声（音色）と曲想とのかかわりを中心として、オペラと歌舞伎の特徴、音楽の多様性などを解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評して、多様な音楽のよさや美しさを理解して聴いている。
具学 体習 の活 評動 価に 規お 準け る	比較鑑賞において、オペラや歌舞伎の内容とともに、背景となる音楽文化や歴史に関心を持ち、聴くことに意欲的である。	比較鑑賞において、アリアのベルカント唱法や長唄の謡い回しの特徴を知覚し、感じ取っている。 アリア・長唄の歌唱体験において、ベルカント唱法や長唄の謡い回しで歌い、それぞれのよさを的確な言葉で表現してワークシートに記入したり、伝え合ったりする。	紹介文を書き伝え合う活動において、オペラと歌舞伎における歌声（音色）と曲想とのかかわりの特徴を比較し、音楽の多様性を理解して鑑賞したことを、自分なりの感じ方、客観的な根拠、自分にとっての価値について述べている。

#### 6 学習活動と評価の計画(4時間扱い) 鑑 鑑賞教材

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	具体的評価規準
第 1 次 (2)	総合芸術としてのオペラと歌舞伎のあらすじや登場人物、音楽文化について知り、比較しながら歌声（音色）と曲想とのかかわりを感じ取る。	鑑 「アイダ」から第3幕より「ああ我が故郷」 鑑 「勸進帳」 ・オペラの特徴を知る。 ・オペラの歌声（音色）と曲想とのかかわりを感じ取る。 ・長唄の特徴を知る。 ・長唄の歌声（音色）と曲想とのかかわりを感じ取る。	音色 三連符 フェルマータ 間	ア - イ -

第2次(1)本時	<p>アリアと長唄のそれぞれの歌声(音色)を特徴付ける発声の違いを感じ取ったり、歌う体験をしたりして、音楽の多様性を感じ取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・G Tの模範演奏を聴いて、ベルカント唱法，長唄の謡い回しについて，違いを比較して聴く。</li> <li>・実際に演奏を聴くことにより音色や声の響きばかりでなく，表情や身体の動きも含めて鑑賞する。</li> <li>・それぞれの発声法でアリア及び長唄の一部を歌う。</li> </ul>	<p>音色 強弱 速度</p>	<p>イ -</p>
第3次(1)	<p>アリアと長唄のそれぞれの歌声(音色)と曲想とのかかわりの特徴を比較して鑑賞し，自分なりの感じ方，客観的な根拠，自分にとっての価値について述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2曲の共通点や相違点，併せてその音楽だけに見られる固有性を聴きくらべて，それぞれのよさや美しさについて紹介文を書き，グループごとに伝え合う活動をする。</li> </ul>		<p>エ -</p>

## 7 本時の学習

### (1)ねらい

アリアと長唄のそれぞれの歌声(音色)を特徴付ける発声の違いを聴いたり，歌う体験をしたりして，音楽の多様性を感じ取る。

### (2)準備・資料

教科書 ワークシート ピアノ ホワイトボード2枚 短冊

### (3)学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師のはたらきかけ ( 学習活動における具体の評価規準)
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラと歌舞伎の特徴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらも総合芸術であることや，それぞれの特徴を比較しやすいよう写真などを掲示する。</li> </ul>
<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>オペラと歌舞伎の歌声の違いを感じ取ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに学習した歌声(音色)の発声法を中心に注目させ，本時の学習内容を明確にする。</li> <li>・本時の学習課題を明確にすることで，一人一人が意欲的に活動できるよう指導する。</li> </ul>
<p>3 オペラと長唄を聴き，それぞれの特徴をワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・G Tの歌を聴くことで，表情や声の響きの違いをとらえやすいようにする。</li> <li>・聴くポイント(歌声，表情，身体の使い方)を絞り，感じたことや考えたことを的確な言葉で表現するよう助言する。</li> <li>・特徴を比較しやすいよう，自分たちの合唱と比較するよう助言する。</li> </ul>

<p>4 グループに分かれてそれぞれの歌い方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌声（発声法・呼吸法・響き）</li> <li>・ 表情</li> <li>・ 身体の使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの歌声の共通点や相違点をまとめやすいようワークシートを工夫する。</li> <li>・ 話合いに行き詰まっているグループには，GTに質問したり実際に歌ってもらったりすることでスムーズな話し合いができるよう助言する。</li> </ul>
<p>5 グループで調べたことを全体で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの歌声の共通点や相違点を歌声，表情，身体の使い方ごとに確認し，理解が深まりやすいよう短冊を使用する。</li> <li>・ 他のグループの意見に質問したり，質問に対して根拠をもって意見が述べられるよう助言する。 アリア・長唄の歌唱体験において，ベルカント唱法や長唄の謡い回しで歌い，それぞれのよさを的確な言葉で表現してワークシートに記入したり，伝え合ったりする。（イ - ）</li> </ul>
<p>6 発声法を体験する。 (1)ベルカント唱法 (2)長唄の発声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に歌う体験をすることで，それぞれのよさを味わい，技能にとらわれず楽しんで歌う雰囲気をつくる。</li> <li>・ それぞれの歌声の特徴を感じ取りながら歌うよう助言する。</li> </ul>
<p>7 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に体験をしたことをふまえ，気付いたことを加筆させる。</li> <li>・ 今回の活動を通して，音楽は多様であることに気付くと共に，それぞれにふさわしい歌声や言葉の特性と音楽とのかかわりがあることが理解できるように配慮する。</li> </ul>

8 観点別評価の生かし方

【鑑賞の能力】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況へのはたらきかけ・Aと判断される生徒
<p>アリア・長唄の歌唱体験において，ベルカント唱法や長唄の謡い回しで歌い，それぞれのよさを的確な言葉で表現してワークシートに記入したり，伝え合ったりする。 (イ - )</p>	<p>【評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の様子を観察や，各自のワークシートから見取る。</li> </ul> <p>【Cと判断される状況へのはたらきかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの話合いに積極的にかかわるように促し，聴くポイントを助言し自分なりに感じ取ったことを表現できるよう励ます。</li> </ul> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <p>それぞれの特徴を感じ取った積極的な発言・発想。 根拠を明確にした自分なりの考え。</p>